

令和3年度(2021年度)

学習シラバス

渋谷区立原宿外苑中学校
第2学年



シラバスを最大限活用しよう!

渋谷区立原宿外苑中学校長

駒崎 彰一

シラバス(Syllabus) = 授業についての要項

担当の先生が1年間の授業計画(要項=ポイント)を伝えるためのものです。

授業内容、年間スケジュール、授業のねらいや目標、授業の形式、評価方法などの授業に関する情報が書かれています。

シラバスで目標の確認

シラバスには、授業のねらいや目標が記されています。

授業を通して、どんな知識や技能、資質・能力を身につけられるのか、迷うことのないように到達目標が設定されています。授業を受けている中で、目的を見失わないために重要な機能を果たしていくはずです。

シラバスで担当の先生や授業のイメージをつかむ

シラバスは、担当の先生が書いています。そのため、シラバスの内容にはバラつきがあります。細かく課題やスケジュールを設定している先生もいれば、基本情報以外は書かない先生もいます。先生ごとの性格がシラバスに表れています。細かく指導してくれる先生なのか、自分のペースで授業を進める先生なのかなど、担当の先生のイメージをつかむことができます。同時に、授業がどのように進められるのかが示されていますので、授業のイメージをつかむこともできるはずです。

シラバスを読んで事前準備

シラバスには授業に必要な心構えが明記されています。それだけでなく、事前に読んでおくとプラスになる情報が満載です。シラバスをよく読んで事前準備しておくことは、授業に主体的に参加して充実したものにするため重要なことです。

シラバスで評価方法を確認

シラバスを読めば、その授業の評価方法を知ることができます。評価方法は授業によって様々です。評価はテストだけではありません。提出物や授業に取り組む姿勢など様々な観点で評価され成績となります。これらの評価方法については、シラバスに記載されています。大切な部分ですから、注意深く読んでおきましょう。

シラバスは契約書

シラバスは、担当先生との間に交わされる契約書のようなものです。シラバスに書かれていることに従って、先生は授業を進めていきます。一方、生徒の皆さんはシラバスを読んで注意事項や約束事項を守る必要があります。お互いが有意義に授業に臨み、充実させるための契約書として、シラバスは機能しているのです。

定期テストを受けるにあたって

1. テスト1週間前

- ① 部活動は原則中止になります。放課後はすぐに下校します。
- ② 学習計画表などを活用して、テスト勉強に取り組みます。

2. テスト前日までに

- ① 試験範囲表などを参考にし、試験に必要なものを準備します。
教科によっては、特別なものが必要になることもあります。当日になってあわてないように前日に持ち物のチェックをします。
- ② テスト当日に、提出物のある教科もあります。忘れないように注意します。

3. テスト当日

① 開始前

- ア 机を整頓し、開始5分前の予鈴で着席する。
このときに、机の中は空にし、机の上は、筆記用具と消しゴム、指示されたものだけとします。
- イ かばんや荷物は、後ろのロッカーに置き、机のまわりには何も置きません。
- ウ もう一度机の中に、何も入っていないか確認します。
- エ 下敷きの使用は認められておりません。必要なときには前日までに担任の先生に相談をしておきます。

② 予鈴後

- ア あいさつをした後は、話をしてはいけません。
- イ 問題用紙は、裏返しにして、すみやかに自分の分を取り、後ろにまわします。
- ウ 配布部数に余りがあったり、足りなかったりした場合には、静かに手をあげ、指示を待ちます。

③ 開始後

- ア 監督の先生の【はじめ】の合図にしたがって、問題用紙を表にします。
- イ 枚数等に不備がある場合には、静かに手をあげて、監督の先生が来るのを待ちます。
- ウ 最初に、クラス、出席番号、名前を記入します。
記名のない解答用紙は採点の対象にはならなくなるので、必ず記名しましょう。

④ テスト中

- ア 丁寧に、誰もが読める字を心がけること。
- イ 特に漢字ははっきりと書きましょう。はっきりしない場合には採点対象となりません。
- ウ 消しゴムで消すときは、下の文字が残らないようにしっかりと消します。
- エ 質問や疑問がある場合には、静かに手をあげ、そのまま待つこと。
- オ 消しゴムや筆記用具、問題用紙等を落としたときは、静かに手をあげます。
絶対に自分で勝手に拾ってはいけません。
- カ 消しゴムなどの、物を貸したり借りたりすることは禁止です。
- キ 体調が悪くなった時には、すぐに手をあげて監督の先生を呼びます。
- ク 周囲を見回す(よそ見をする)、他の人の答案用紙を見るなどをしてはいけません(不正行為といえます)。
- ケ 不正行為はその時間のテストが0点になります。不正行為は絶対にやめましょう。

コ 早く終わったら、解答用紙をよく見直しをしましょう。

⑤ 終了後

ア 監督の先生の【終わり】の合図で筆記用具を置きます。

イ 監督の先生の合図のあとに、解答用紙に解答を書いてはいけません。

ウ おしゃべりをしたり解答の確認をしたり、他人の答案と見比べたりしてはいけません。

エ 各列、一番後ろの座席の生徒は、自分の答案の上に、順次前の人の答案を重ねて集めます。他の人は、静かに自分の席で待ちましょう。

オ 監督の先生が、答案を確認した後に号令をしてください。

カ 号令後は、次の時間の準備の時間です。トイレ等を早めにすませ、次の時間のテストに備えます。一日の最後のテストのときは、帰り学活の準備をします。

キ 問題用紙は、テストが返却されるときに使用します。無くしたり、丸めたりしないように、各自保管してください。

4. 答案が返却されるとき

① 机の上には、問題用紙と赤ペンのみを準備します。筆箱等を机に出してはいけません。

② 答案をよく確認し、先生の解説をよく聞きましょう。

5. 答案返却後

① 復習が一番大切です。できなかったところをしっかりとできるように心がけること。

② 自分の学習計画表を見直し、何がよかったか、何が悪かったのかを把握しましょう。

評価・評定に関して

1. 観点別評価

中学校では各教科の目標に応じて、その達成状況を「観点」ごとに評価し、A、B、Cの3段階で評価します。それぞれの「観点」には、学習目標が定められており、それを「評価規準」と言います。（各教科の「観点」については、各教科のシラバス【学習をすすめるにあたって】のページを参考にしてください）

各教科では、指導計画・評価規準に基づいて、それぞれの「観点」を定期考査、実技テスト、単元テスト、提出物、作品、レポートやプリントなどの資料をもとに点数化していきます。「観点」ごとに目標（評価規準）の達成状況を計算し、以下のように評価を付けていきます。

- 【A】：「十分満足できると判断できるもの」……………達成率80%以上
- 【B】：「おおむね満足できると判断できるもの」……………達成率50%以上
- 【C】：「努力を要すると判断されるもの」……………達成率50%未満

2. 評定

各教科の「評定」は5, 4, 3, 2, 1の5段階で記入します。「評定」は、「観点別評価」を、教科の特性や生徒の実態に応じた「重み付け」により100点満点に換算して計算をし、以下のように決定します。（各教科の重み付けは、各教科の【学習をすすめるにあたって】を参考にしてください）

- 5：「十分満足できると判断できるもののうち、特に高い程度のもの」・達成率90%以上
- 4：「十分満足できると判断できるもの」……………達成率80%以上
- 3：「おおむね満足できると判断できるもの」……………達成率50%以上
- 2：「努力を要すると判断できるもの」……………達成率20%以上
- 1：「一層努力を要すると判断できるもの」……………達成率20%未満

※ テストでよい点数をとっても、普段の授業態度がよくなかったり、提出物の提出状況が悪かったりすると、良い評価・評定は付きません。普段から学習に真剣に取り組み、積極的に参加することが大切です。

欠席・遅刻等による定期テストの対応について

定期テストは現時点での各教科の学習状況に測るものです。その結果はシラバスに示したように観点別評価の評価資料として用います。定期テストの全体の公平性と学習状況を正しく捉えるという点から、欠席・遅刻に関して次のような扱いをいたします。

1 出席停止による欠席（感染症等で出席が認められない場合）

- ・受験できない教科に対して、後日、試験を実施する。
- ・結果については当該教科で参考点とする。

2 病気等による欠席

- ・受験できなかった教科に対して、後日、試験やレポートを実施する。
- ・結果については当該教科で参考点とする。

3 遅刻

- ・職員室に登校の報告をし、自分の教室で受験する。
- ・テスト時間は正規の終了時間までとする。
- ・結果についてはその得点を評価材料とする。

4 自己都合による欠席（寝坊等）

- ・後日の定期考査の別試験は実施しない。
- ・結果は未受験とする。

国語科の学習を進めるにあたって 第二学年

☆2年国語科の課題

確かで豊かな言葉の力を養い、語感や感性を磨いて思考力・表現力を高める

課題克服のために

- ① 言葉の意味や働きを理解し、論理や感性を培う授業を皆で創ります。
- ② 1年次の国語科の学習を参考に授業目標を意識して言語活動を行い、系統的な学習の積み重ねを行います。

発展的な学習のために

- ① 授業で興味をもった事柄についての課題解決を自ら図り、知識や情報を豊かにして日常生活や学習活動で活用する。
- ② ノートやワークシートのメモ欄や記入欄を効果的に利用し、自主学習、補充学習へと発展させる。

☆学習活動への取り組み方

- ① ガイダンスで説明されたルールを守り、言語活動に積極的に取り組む。
- ② 自分の考えや他者の考えを大切にし、聞き合い、語り合っ、言語感覚や論理力を磨き合う。
- ③ 目的をもって学習活動に臨み、小集団活動においては互いに学び合い教え合う姿勢を大切に学習課題の解決を図る。
- ④ 補充教材やワークシートは学習後にファイリングし、その後の学習に活かす。

☆学習する上で注意してほしいこと

「話す・聞く」「書く」「読む」という3領域で構成される言語活動に加えて、「感じる・考える」活動を重視し、それぞれの技能や能力の向上を目指して学習活動に臨むことが大切です。4領域の言語活動の中で最も難しいのは「聞く（聴く）こと」です。音声をただ受け止めるのではなく、主体的に「聞き取る」「聞き分ける」ことができないと、話の要点をとらえて共感・批判し、考えを広げ深めていく力が身に付きません。先生の説明や他者の発言をしっかりと聞き（聴き）、さらに「聞き取る」「聞き分ける」ことを意識して聞きましょう。また、国語の学習活動では自分の考えをもち、伝え合うことが大切です。その際には、自分の考えの根拠も示せるようになりましょう。提出物や宿題は提出期限を守り、学習課題には丁寧に取り組んでください。

☆家庭学習の進め方

授業で身に付けた基礎的・基本的な言葉の知識(漢字・語句)を家庭で復習することを常に心がけてください。自主的・計画的に進めましょう。また、言葉の力を高めるには読書生活を向上させることも大切です。多種多様な文種・分野の本を読むことで、自分の知識や世界を広げ深めることも大事なことです。様々なブックリストを参考にして新しい読書の世界を切り開いていきましょう。

☆テスト前の学習のしかた

定期考査では文章の読解、漢字の読み書き、語句・文法の知識、古典（古文と漢文）など多様な分野の問題が出題されます。授業の復習を必ず行い、出題範囲の文章を深く読み込み、感想や解釈、意見の根拠を明らかにして自分の考えを適切に表現できるようにしましょう。また、授業で暗唱した作品は覚え直すこと。大切な用語やキーワードも説明できるようにしましょう。計画的に学習に取り組み、地道な努力を継続させましょう。

☆一年間の学習内容

分野	学習内容	分野	学習内容
文学的文章	<ul style="list-style-type: none"> 小説「アイスプラネット」「盆土産」「走れメロス」 詩「見えないだけ」 短歌「短歌を味わう」 短歌解説「短歌に親しむ」 言葉「言葉を比べよう」 随筆「言葉の力」「字のない葉書」 	論理的文章	<ul style="list-style-type: none"> 説明「クマゼミ増加の原因を探る」 情報「『自分で考える時間』をもとう」 論説「モアイは語る」 評論「君は『最後の晩餐』を知っているか」
		古典	<ul style="list-style-type: none"> 古文「枕草子」 古文「平家物語」「扇の的」「仁和寺にある法師」 漢詩「漢詩の風景」
書く	<ul style="list-style-type: none"> 多様な方法で情報を集めよう 気持ちを込めて書こう 根拠の適切さを考えて書こう 表現のを工夫して書こう 魅力を効果的に伝えよう 構成や展開を工夫して書こう 	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> 要点を整理して聞き取る 魅力的な提案をしよう 聞き上手になろう 立場を尊重して話し合おう
		読書	<ul style="list-style-type: none"> 研究の現場によろこ
通 年			
【漢字と語句】 【書写】 【文法】			

☆評価について

知識及び技能	思考力・判断力・表現力			主体的に学習に取り組む態度
	話すこと 聞くこと	書くこと	読む力	
言葉の特徴や使い方 情報の扱い方 我が国の言語文化	話すこと 聞くこと	書くこと	読む力	
評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 ワークシート ノート 定期テスト 小テスト（漢字の読み書き、語句、文法など） 課題（暗唱など） 提出物 書写作品 音読 創作 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 ワークシート ノート 定期テスト 小テスト（聞き取り学習など） スピーチ、討論、話し合い活動など 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 ワークシート ノート 定期テスト 作文（意見文、感想文など） 創作 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 ワークシート ノート 定期テスト 作文（意見文、感想文など） 音読、朗読 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 ワークシート ノート 作文 提出物 作品 発表 ＊上記の取り組みや振り返りの記述等から総合的に判断する。

社会科の学習を進めるにあたって(2年生)

◇授業の進め方

〈地理的分野〉

- ① 教科書・資料集を中心に進めていきますが、プリントを配布するときもあります。
- ② プリントについては、必ずノートに貼ってください。
- ③ 授業中は、地図帳・資料集など様々な資料を使用して教師の発問について考える、考えたことをノートに書いたり、自分の言葉で発表する作業を通して思考力を深める作業を行います。

〈歴史的分野〉

- ① 教科書・資料集を中心に進めていきますが、地図帳の使用、プリントを配布するときもあります。多くの資料を基に授業を進めていきます。配布されたプリントは、必ずノートに貼ってください。
- ② ノートには、先生が授業中に補足した内容や自分の考えを書き残すとより理解が深まります。
- ③ 確認テスト(基礎的・基本的な事項)を行います。
- ④ 調べ学習を行い、レポート等にまとめる学習を予定しています。

◇学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業で使うものを忘れないようにしましょう。普段使うものは、次の通りです。
地理の持ち物〔教科書・地図帳・資料集・ノート(プリント)〕
歴史の持ち物〔教科書・資料集・ノート・(地図帳)〕
- ② 授業の前は、ノートを開いて前の授業で何をやったか確認をしておきましょう。
- ③ 先生や友だちの話を良く聞きましょう。
- ④ よく考えて、授業に参加しましょう。
- ⑤ 自分の考えを発表できるようにしましょう。

◇家庭学習の進め方

- ① 授業があった日の授業内容を、ノートを使って復習しましょう。
- ② 基礎的・基本的な事項の確認をしましょう。
- ③ 余裕があれば参考書や問題集で問題に取り組みましょう。
- ④ ニュースや新聞を通して、世界的視野から日本で起こっている出来事を捉え、社会情勢を正しく見極める力を養いましょう。

◇テスト前の学習

〈地理的分野〉

- ① 教科書・ノート・資料集を見直し、基本的事項を理解しましょう。
- ② 必ず地図を見ながら復習しましょう。
- ③ 自分で問題を作成するなど工夫して復習しましょう。

〈歴史的分野〉

- ① 教科書・ノート・資料集・プリントを見直し、基本的事項を理解しましょう。
- ② 年表を使い、できごと整理(どこで・だれが・何をした?・その結果?)をしましょう。
- ③ できごとを丸暗記するのではなく、原因や影響など関連づけて大きな流れをつかみましょう。
- ③ テーマ(タイトル)ごとにノートを見直し、テーマを深めるための書き込みをしましょう。

◇1年間の学習内容

月	前 期	月	後 期
4	<地理的分野> 第3部 日本のさまざまな地域 第1章 身近な地域の調査 第2章 日本の地域的特色 日本の自然環境、人口、産業の特色	10	<歴史的分野> 第5章 開国と近代日本の歩み 第1節 欧米の進出と日本の開国 近代革命、産業革命、ロシアとアメリカの 発展、アジア侵略、不平等条約、尊王攘夷運 動、江戸幕府滅亡 第2節 明治維新 新政府成立、三大改革、富国強兵、文明開 化国際関係、国境と領土、自由民権運動、立 憲制国家 第3節 日清・日露戦争と近代産業 欧米の侵略、条約改正
5	第3章 日本の諸地域 第1節 九州地方 自然環境、人々の生活、産業の特色 第2節 中国・四国地方 自然環境、人々の生活、産業の特色	11	
6	第4部 地域の在り方 第1章 地域の在り方	12	<地理的分野> 第3節 近畿地方 自然環境、人々の生活、産業の特色 第4節 中部地方 自然環境、人々の生活、産業の特色 第5節 関東地方 自然環境、人々の生活、産業の特色 第6節 東北地方 自然環境、人々の生活、産業の特色 第7節 北海道地方 自然環境、人々の生活、産業の特色
7	<歴史的分野> 第4章 近世の日本 第1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統 一 兵農分離、朝鮮侵略、桃山文化 第2節 江戸幕府の成立と鎖国 江戸幕府の仕組み、さまざまな身分、貿 易振興、鎖国、対外政策 第3節 産業の発達と幕府政治の動き 諸産業の発達、都市の繁栄、元禄文化、 享保の改革、田沼の政治、寛政の改革、化 政文化、天保の改革	1	
9		2	
		3	

◇評価

1、知識・技能

*評価方法：定期考査、小テスト、ノート、プリント

- ・社会的事項について知識を身につけ、理解しているか。
- ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだすことができているか。

2、思考・判断・表現

*評価方法：定期考査、小テスト、ノート、プリント

- ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだし、わかりやすく表現することができて
いるか

3、主体的に学習に取り組む態度

*授業時の態度、提出物、ノート

- ・課題レポート、ノート等の記述
- ・授業に取り組む姿勢や発言

数学の学習を進めるにあたって 第2学年

☆ 2年数学の課題は

課題は：

- ① 文字式を使って説明すること。
- ② 方程式を利用して問題を解決すること。
- ③ 関数を利用して問題を解決すること。
- ④ 図形の性質を調べたり証明したりすること。
- ⑤ 起こりやすさを説明すること。
- ⑥ データを比較して判断すること。

それを克服させるために：

- ① 中学生としての良き学習習慣を身につける。
- ② 単元ごとに小テストを実施し、達成度と課題を把握して解決していく。
- ③ タブレットを活用し、基礎の繰り返し練習を行う。
- ④ 多様な考え方を友達同士で共有する機会を増やす。

発展的な学習のために：

- ① 学んだことをもとにして、身近な問題や数学的な問題の解決方法について考える。
- ② 多様な考え方を追求することにより、数学に対する見方や考え方を深める。

☆ 授業の進め方

- ① 授業の課題を把握し、見通しをたてる。
- ② 自分の考えをもち、問題を解決する。
- ③ 友達の考えを知って共通点や違いを発見したり、話し合ったりする。
- ④ 授業を振り返って、分かったことや疑問に思ったことをまとめ、自己評価をする。
- ⑤ 新たな課題を見つけ、さらに考えを深める。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。
- ⑦ 単元テストや小テストで自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直ししながら、分からない部分を復習する。

☆ 学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な持ち物（教科書・ノート・問題集・筆記用具）を忘れないよう、毎回必ず準備する。学習内容によって、三角定規・コンパスが必要な場合もあるので、予め用意しておく。
- ② 授業中は先生からの指示をよく聞き、「話を聞く時間」、「自分で考える時間」、「友達と考えを共有する時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリのある授業にする。
- ③ 黒板の内容は、色分けなどをしてノートやプリントに書く。また、気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどを書き込み、自分なりに工夫してまとめるとよい。
- ④ 課題に対して積極的に考え、見通しをたてて自分の考えをもつ。友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。
- ⑤ 疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問する。
- ⑥ 宿題や提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆ 家庭学習の進め方

- ① 学習した内容は、教科書やノートを使って、その日のうちに復習をする。
- ② タブレットや問題集を利用して問題演習をする。
- ③ 問題を解いたら必ず答え合わせを行い、わからなかったことや、間違えたところを確認し、自分の課題を確認する。

☆ テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、ノートや教科書をよく見直す。
- ② 章末問題に取り組む。
- ③ 問題集の問題を解く。すべて解き終えたら、一度間違えた問題や分からなかった問題などをもう一度解き直す。
- ④ ノートや問題集のまとめをして提出の準備をする。

☆ 1年間の学習内容

前 期	後 期
第1章 式の計算 1. 式の計算 2. 文字式の利用	第5章 三角形と四角形 1. 三角形 2. 平行四辺形
第2章 連立方程式 1. 連立方程式とその解き方 2. 連立方程式の利用	第6章 確率 1. 確率 2. 確率による説明
第3章 1次関数 1. 1次関数 2. 1次関数の性質と調べ方 3. 2元1次方程式と1次関数 4. 1次関数の利用	第7章 データの比較 1. 四分位範囲と箱ひげ図 ○1年間のまとめ 問題演習
第4章 平行と合同 1. 説明のしくみ 2. 平行線と角 3. 合同な図形	

☆ 評価について

1 知識及び技能

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、ノート、プリント

- ・基礎的な概念や原理・法則を理解している
- ・学んだことからについて正しい知識を身につけている。
- ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したりしている。
- ・数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、ノート、プリント、話し合い活動

- ・数学を活用して事象を論理的に考察することができる。
- ・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察することができる。
- ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業や課題への取り組み、ノート、プリント

- ・授業に取り組む姿勢や積極的な発言
- ・ノートやプリントの記述

以上を総合的にまとめ評価する。

理科の学習を進めるにあたって 第2学年

☆2年理科の課題は

課題は：

- ① 興味関心は全体的によく、学習に関しても前向きである。発言も多く、お互いに声を掛け合って学習することも積極的に行う。しかし、時間とともに学習内容を忘れてしまう生徒が多い。
- ② 自分の考えをまとめて言語化（文章化）することが苦手な面がある。

それを克服するために：

- ① 単元ごとの小テストの実施
- ② 授業で勉強したことの振り返りを友達同士で話し合う（言語化する）ことにより学習の効果が上がる。その時メモを取り、内容を明確にすることが大切である。
- ③ 実験観察が終わったら、結果と考察をレポートにして提出する。この際、考察が最も重要視される。他者のよいレポートを参考にすることも大切である。

☆授業の進め方

- ① その時間の目標や課題を理解する。
- ② 課題に対して予想を立て、観察、実験を行う。
- ③ 結果から見出したことを整理し、発表する力をつける。
- ④ 自然科学の考え方を身につける。
- ⑤ 教科書やプリント等を使って重要な用語や考え方を確認し、学習内容をより深く定着させる。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。

☆学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な物は忘れない。
- ② 授業中、先生の説明や友達の発言をしっかりと聞く。友達の発言の中にも考え方のヒントが示されているので、自分の考え方の参考にする。
- ③ ノートやワークシートをきちんととる。板書事項はもちろんのこと、自分なりに工夫する。プリントはノートに貼るかファイルにまとめておく。
- ④ わからないときはそのままにせず、必ず質問する。疑問をもつとよい。
- ⑤ 実験、観察は積極的に行う。自分でやってみて自分の目で確かめ記憶にとどめることが必要。他の班員に任せるだけにはしない。
- ⑥ 宿題、提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆家庭学習の進め方

- ① その日の授業内容はその日に復習する。予習より復習が大切。教科書・ノート（プリント類）を見直す。
- ② 単元ごとに小テストを行います。

☆テスト前の学習

- ① 教科書、ノート、ワークシートをよく見直す。
- ② 問題集の問題を解く。わからないところはそのままにせず、解説を読んだり、質問したりする。
- ③ 観察、実験のまとめを見直す。結果だけでなく、観察、実験の注意なども確認をすること。

☆1年間の学習内容

	物理化学分野	生物地学分野
4月	<物理分野>	<生物分野>
5月	化学変化と原子・分子	生物のからだのつくりとはたらき
6月	1. 物質のなり立ち	1. 生物と細胞
7月	2. 物質どうしの化学変化	2. 植物のからだのつくりとはたらき
9月	3. 酸素が関わる化学変化	3. 動物のからだのつくりとはたらき
10月	4. 化学変化と物質の質量	4. 刺激と反応
11月	<化学分野>	<地学分野>
12月	電気の世界	天気とその変化
1月	1. 静電気と電流	1. 気象の観測
2月	2. 電流の性質	2. 雲のでき方と前線
3月	3. 電流と磁界	3. 大気の動きと日本の天気

☆評価

1 知識及び技能

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント

- 基本的な概念、法則を理解している
- 学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- 実験、観察の様々なデータと、理解した法則と内容が一致することができる。
- 観察、実験で使う器具の基本操作が身についている。
- 観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- 実験、観察のデータを論理的に考えることができる。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント、レポート、話し合い活動

- 観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- 観察、実験の考察を言語化できる。
- 観察、実験のデータを適切な方法でまとめることができる。

以上のことから個人の内面での理解はもとより、論述や発表、話し合いで意見を共有できるものとする。

- 観察、実験を安全かつ正しい方法を身につけ、かつ実践することができる。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業への取り組み、個人内評価 等

- 授業態度や発言や記録
- 自己評価

以上を総合的にまとめ評価する。

音楽の学習を進めるにあたって 第2学年

☆課題

興味・関心をもち様々な活動に積極的に取り組む姿勢が見られます。一方で、自分の声を人に聞かれることに遠慮があり表現力が乏しくなることや、音楽を聴き感受したことを言葉で表現することに課題があります。

☆課題を克服するために

- ① ピアノやパート CD の周りでパート練習を行い、歌唱表現のアドバイスをします。
- ② 鑑賞時にグループで感受したことを互いに発表しあう時間をとり、多角的な視点や言葉の表現を知る機会を設けます。

☆発展的な学習のために

演奏を録音し、客観的に聴く時間を設けます。聴くことにより、課題に気付く力や鑑賞能力の向上につなげます。

☆授業の進め方

- ① 持ち物は教科書・合唱曲集・ファイル・筆記用具です。
- ② 歌唱では、発声練習・パート練習・合唱練習を状況に応じて行います。
- ③ 鑑賞では、プリントを使用し、作曲者・楽器・音楽構成などについて学習をします。
- ④ その他、授業時数に応じて創作、楽器実技などを学習します。
- ⑤ 単元ごとに実技テストを行います。課題は授業内で練習します。

☆学習する上で注意してほしいこと

どの題材も一生懸命に取り組み、授業を作っているひとりとしての意識を強く持ちましょう。

- ① 「話を聞く時間」と「自分を表現する時間」の区別をつけましょう。
- ② 実技では、どの形態の練習も積極的に取り組みましょう。
- ③ プリントの内容は、工夫して丁寧に完成させましょう。

☆家庭学習の進め方

家庭では、様々なジャンルの音楽にふれ、音に対する感性を磨いてください。

☆テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、教科書やプリントをよく見直しましょう。
- ② 実技テストは、題材によって一人で行ったり、複数で行ったりします。授業での練習＝実技テストという心構えで臨んでください。

☆ 1年間の学習内容

月	単元	月	単元
4月	「夏の思い出」	10月	合唱コンクールに向けて合唱練習
5月	「小フーガト短調」	11月	「交響曲第5番ハ短調」
6月	合唱コンクール課題曲 「時の旅人」	12月	「アルトリコーダー」
7月	合唱コンクール自由曲	1月	「リズムアンサンブル」
9月	合唱コンクールに向けて合唱練習	2月	合唱曲
		3月	

●実際には、歌唱・鑑賞・理論が重複して授業は進行します。

●状況によって実施する順番が変更される可能性があります。

☆評価について

①知識・技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わりや音楽の多様性を理解している。

創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて表現している。

- ・評価内容…歌唱時の正しい姿勢、発声、音程、器楽の正しい奏法、音楽記号の理解と表現する技能、作曲家、楽曲、演奏楽器、歴史、楽曲がもつ音楽性の理解
- ・評価方法…観察・実技テスト・定期考査・プリントの内容

②思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。どのように表現するかについて思いや意図をもち表現をしたり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

- ・評価内容…楽曲がもつ音楽性の理解、歌詞への理解、音楽記号の理解とそれに伴う表現力、どのように表現するか思いや意図を持っている
- ・評価方法…観察・実技テスト・定期考査・プリントの内容

③主体的に学習に取り組む態度

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

- ・評価内容…授業中の態度や活動の主体性
- ・評価方法…観察・提出物・プリントの内容

美術の学習を進めるにあたって（2年生）

◇ 授業の進め方

- ① 持ち物は、鉛筆、教科書、資料集、レタリング字典、絵の具セット（デザインセット）、ファイルです。必要に応じて小型の鉛筆削り、油性ペン、色鉛筆、タブレット等を使うこともあります。鉛筆、資料集、レタリング字典、絵の具セット、ファイルは教材費で購入いたします。
- ② 単元の始めに「制作のルール」を確認します。「制作のルール」は、その単元で最低限達成すべきポイントです。意欲的なプラスアルファの取り組みを大切にしています。
- ③ 作品制作では、関連作品を鑑賞するなど、これから作るものについて学習し、制作の手順や方法について説明を聞いて作業を進めます。
良いものを作ろうと意欲的に取り組む姿勢と、計画的に制作を進め、期限内に完成させることを大切にしています。
- ④ 鑑賞ではワークシートを使い、有名な作品や作者、技法や美術のジャンルなどについて学習します。単元の中で、他の人が作った作品を鑑賞することもあります。また、そこから感じ取ったことを文章等で表現をしたり、話し合い活動によって考えを深めていきます。

◇ 学習する上で注意して欲しいこと

- ① 忘れ物に気を付けてください。
- ② 「制作のルール」にのっとって制作できているか、よく確認をしましょう。
- ③ 期限内に満足のいく形で作品を完成させられるように、集中して制作活動に取り組みましょう。
- ③ 提出の期限は守ってください。提出物には記名を忘れないようにしましょう。
- ④ 美術室の備品は全校生徒が使うものです。大切に扱い、次の人が気持ちよく使えるように、片付けまでしっかりと行いましょう。
- ⑤ 1時間1時間の授業を大切にするために、チャイムと同時に始められるようにしましょう。
- ⑥ 課題内容によって衣服に汚れが付く恐れがあります。ジャージ等を上に着て作業を行いましょう。

◇ 家庭学習の進め方

- ① 授業内で完成できなかった場合など、一部の課題を宿題とすることや、放課後に制作をしてもらうことがあります。計画的に制作を進め、提出期限を守りましょう。
- ② 課題（テーマ）が発表されたら、身近にある雑誌やカタログ、写真や実物などを意識して見ておくと、作業をスムーズに進めることができます。
- ③ 好きなもの、変わったもの、個性的なもの、綺麗なものなど、普段から色々なものに興味を持ち、そこから様々なことを感じ取れるようにしておくといいでしょう。
- ④ 美術作品は本物に触れることで良い影響を受けることができます。機会があれば展覧会などへ、行ってみるのも良いと思います。

◇ テスト前の学習

- ① テストは、教科書や資料集、プリントや授業で行った内容等を中心に問題が出題されます。プリントや教科書、資料集等に目を通し、授業の内容をよく思い出しておきましょう。
- ② 配布されたプリント類は全て、ファイリングしておきましょう。

◇ 1年間の学習内容（2年生）

前 期		後 期	
月		月	
4月	オリエンテーション	11月	絵画／版画／鑑賞 ・版画について ・木版画
	絵画／デザイン／鑑賞	12月	
5月	・視覚的効果について		
6月	・ポスター制作	2月	
7月			
9月	鑑賞	3月	絵画 ・デッサン
	彫塑／デザイン／鑑賞		
10月	・自分でデザインした形を作る		

◇ 評価

①「知識・技能」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしているか、表現方法を創意工夫し、創造的にあらわしているかを評価します。美術的知識に基づいた言葉を覚えるだけでなく、表現や鑑賞において造形的な視点に基づく判断がなされているかや、創造的な技能が身に付いているかも見ます。

②「思考・判断・表現」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方が深められているかを評価します。最終的なアイデアのみでなく、それを生み出すまでの過程や、鑑賞活動においてどのような見方、感じ方をしたかも見ます。

③「主体的に学習に取り組む態度」（評価資料：授業に取り組む姿勢・作品等提出物・定期考査 等）

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしているかを評価します。学習過程で習得する「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、自らの課題に結びつけ、主体的に学習や制作活動の中で発展させていこうとする意欲を見ます。

保健体育の学習を進めるにあたって 全学年

☆保健体育の課題

課題は：

- ①運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動できること。
- ②自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫できること。
- ③必要な運動の技能を高めることや、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けること。
- ④生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けること。

それを克服するために：

- ①授業の約束を守りましょう。
- ②「自分から」取り組みましょう。
- ③自己評価(自分自身で)や相互評価(友達と)を大切にしましょう。

発展的な学習のために：

- ①教科内の科目の系統性や関連性
 - ・保健体育は3年間を通じて学びます。見通しをもって取り組むようにしてください。
 - ・単元(種目)ごとに、授業計画について説明します。
- ②学習への心構え
 - ・「保健」と「体育」の関連も重要です。
 - ・競技種目を行うことや勝敗を競うことだけが運動ではありません。運動に対し苦手意識をもっていたり運動は嫌いと思っている人も、新たな気持ちで授業に臨んでください。
 - ・与えられた運動をただ行うだけでなく、自分や仲間の課題がどこにあるのか、課題の解決のためには何をどのようにすればよいのかなど、積極的に課題の発見や解決に取り組んでください。
 - ・体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲をもって「運動を実践する力」です。普段の生活の中でも運動の実践に心がけてください。
 - ・保健にとっての「学力」とは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することなど「考える力」です。他者と切磋琢磨しつつ変化に対応する能力や資質を養っていきけるよう心がけてください。

☆授業の進め方

- ① 実技の授業は指定の体操着で行います。
活動場所は単元によって校庭、体育館1階、体育館2階で行います。
準備運動やトレーニングを行った後、その日の活動に入ります。
毎時間、自己の目標達成に向け積極的に授業に取り組みしましょう。
- ② 保健の授業は保健の教科書(3年間同じもの)を使用します。
- ③ 単元ごとに達成度を確認する実技テストを行います。

☆学習する上で注意すること

- ①健康管理は、各自でしっかりと行い、欠席、見学がないようにしましょう。体調が悪く授業を見学する場合は生徒手帳の届け出欄に家の人に理由を記入してもらい、印をもらって先生に提出しましょう。忘れた場合や登校後に見学をすることになった場合は、その日から1週間以内に生徒手帳に見学の理由を保護者に書いてもらい申請すること。
- ②休み時間のうちに移動をし、開始時間に遅れることや、必要な持ち物を忘れないようにしましょう。
- ③授業中に怪我をしたり怪我をさせたりすることがないように、集中して取り組み、お互いの安全に配慮しましょう。
- ④技能は常に自己の運動能力を考え判断し、それぞれの技能を高めるように取り組みましょう。
- ⑤実技テストは必ず受けましょう。
- ⑥レポートや学習カードの課題は丁寧に仕上げ、期限を守り確実に提出しましょう。
- ⑦授業の目的を把握し、全力で取り組むこと。

☆テスト前の学習

- ①実技テストは授業で繰り返し練習した基本的な内容です。授業内でより良く習得できるようにしましょう。
- ②定期考査は保健や実技で学習したことが理解できているか、確認します。特に体育実技は体の動きや運動の行い方を言葉でも説明出来るようにしておくことが大切です。体育実技の教科書を熟読し、技能の名称やルールは

正式な名称で正しく覚えましょう。(実技の教科書も3年間使用します)
 ③日頃から分からないことがあれば積極的に質問してください。

☆1年間の学習内容(R3年度)

前 期				後 期			
月	1年生	2年生	3年生	月	1年生	2年生	3年生
4	体づくり 陸上競技 I	体づくり 陸上競技 I	体づくり 陸上競技 I	10	球技 II (バースポ-ル型)	球技 II (バースポ-ル型)	球技 I (ゴール型) 球技 II (バースポ-ル型)
5	陸上競技 I	陸上競技 I	陸上競技 I				
6	新体力測定 器械運動	新体力測定 器械運動	新体力測定 ダンス	11	球技 II (バースポ-ル型)	球技 II (バースポ-ル型)	球技 II (バースポ-ル型)
7	水泳	水泳	水泳	12	球技 III (ゴール型)	球技 III (ゴール型)	球技 III (ゴール型)
9	水泳 球技 I (ネット型)	水泳 球技 I (ネット型)	水泳 球技 I (ネット型)	1	球技 IV (ゴール型)	球技 IV (ゴール型)	球技 IV (ゴール型)
				2	武道	武道	球技 IV (ゴール型)
				3	ダンス	ダンス	武道
				通年	保健	保健	保健

※本年度の「水泳」は、状況を判断し、実施を検討します。
 ※単元については、状況により、実施時期が前後することがあります。
 ※保健は、3年間で48単位時間程度配当しています。

☆評価

運動ができるかどうかだけではありません。体育・保健を総合的に判断します。

観点	評価の観点および内容	評価の材料
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・種目の特性、ルールや審判法を理解しているか ・運動の合理的な行い方を身に付けているか ・健康や運動の仕方や体力の高め方を理解しているか ・技能を高めているか ・体力を高めているか ・仲間と協力し、安全かつ正しいルールで練習やゲームを組み立てることができているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み ・観察実技 ・実技テスト ・定期考査 ・学習カード ・学習ノート ・課題レポート ・記録会や 試合結果の分析
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけ出しているか ・課題の解決を目指して運動の仕方を工夫しているか ・仲間の動きを分析し、課題を上げることができるか 	
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に運動をしている ・協力をして運動をしている ・健康や安全に注意しているか 	など

【保健体育科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【評価の観点】

〔体育分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解するとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

〔保健分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

【各学年の目標】

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

〔体育分野 第3学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

〔保健分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

技術分野の学習を進めるにあたって 第2学年

☆2年 技術分野の課題は

課題は：

- ①エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを学習する。
- ②生物育成に関する技術を学習する。

それを克服するために：

- ①発電機能のある、スピーカーの製作を通してエネルギー変換について学習する。
- ②栽培を通して生物育成に関する技術を学習する。

発展的な学習のために：

- ①調べ学習を経て、コンピュータを使用した作品づくりを行います。

☆授業の進め方

技術の学習内容は「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」の4分野になっています。

第2学年では、前期は「エネルギー変換に関する技術」、後期は「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」を学習します。前期においては、発電の仕組みから、家庭や産業で使用する電気について学習します。その後、はんだづけの練習を経て、スピーカーの作成を行う予定です。

後期においては、主に野菜の苗を育てながら生物育成について学習していきます。

☆学習する上で注意してほしいこと

【技術室の使用に関して】

- ①大変危険な機械がたくさんあります。絶対に勝手に機械に触れないでください。特に技術室木材加工部屋の後部にある、丸鋸盤や自動かな盤は大変危険なので、鉄柵の後ろには入らないでください。
- ②工具を安全に取り扱ってください。のこぎりやキリ、はんだごてで人を傷つけないように、細心の注意をはらってください。
- ③整理・整頓を心掛けてください。釘が1本落ちているだけでも危険です。

絶対に技術室から物を持ち出さないでください。のこぎりやその他工具だけではなく、紙ヤスリや釘なども持ち出すことは厳禁です。

☆家庭学習の進め方

技術分野では、家庭学習は特に必要ありません。そのかわりに、その日に学習した授業内容をよく復習してください。

☆テスト前の学習

技術分野の試験問題は、授業中に詳しく説明したところからほとんど出題されます。また、テストの予想問題は必ず取り組んでください。

☆ 1年間の学習内容

前期		後期	
月	1 生活や社会とエネルギー変換の技術 ・ 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ・ 身の回りにおけるエネルギー変換の技術	月	5 生物育成に関する技術 ・ 生活や社会と生物育成の技術
4	2 エネルギー資源の利用 ・ エネルギーの資源と利用 ・ 燃料を利用した技術 ・ 発電と送電のしくみ	10	・ さまざまな生物育成の技術 ・
5	・ エネルギー変換効率と省エネルギー ・ 運動の利用	11	・ 植物の栽培に必要な条件・容器栽培 ・ 生物を育てる技術の評価
6	3 電気の利用、エネルギー変換の技術による問題解決 ・ 電気エネルギーの特徴 ・ 光や熱に変換するしくみ ・ 動力や音、信号に変換するしくみ ・ 電気回路と回路図	12	6 生物育成技術による問題解決学習
7	・ 電気機器の安全な利用 ・ 電気機器の保守点検	1	7 情報に関する技術 ・ 双方向性のあるコンテンツによる問題解決
8	4 エネルギー変換の技術による問題解決 ・ 製作品の設計・製作 ライト付き Bluetooth スピーカーの製作(エネルギー変換を利用した製作品) 製作の中で電気を供給する仕組み、電気回路、電気機器の安全性について学ぶ。 *作業内容をタブレットで確認。	2	・ 計測、制御による問題解決 コロックルを利用し、フローチャートを用いたプログラミングの基礎技能について学ぶ。 ・ ドローンプログラミングし問題解決学習を行う
9		3	※5～7は天候、成長具合、時期をみて同時に行う

※ 状況によって変更が生じることがある。

☆ 評価

技術分野の学習の評価は、下記3観点から行います。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活で利用されている、エネルギー変換、生物育成、情報に関する技術について関心を持ち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のための知識・技能を身に付けている。	エネルギー変換、生物育成、情報に関する技術を学ぶ中から、問題を見いだして課題を設定し、その課題を解決できるような力を身に付けている。	エネルギー変換、生物育成、情報に関する技術を学ぶ中から、自分の生活に関わる技術の課題を解決するために、主体的に取り組み、改善、実践しようとしている。
方法	授業態度、作業進度 観察、定期考査 レポート	作品 観察 定期考査 レポート	作品 観察 作業進度 レポート

教科としての評価は、技術分野(50%) + 家庭分野(50%) = 「技術・家庭」(100%)として成績を出します。もし、技術分野か家庭分野のどちらかが得意でよく頑張ったとしても、もう一方で手を抜いてしまえば良い成績はつきませんので注意して下さい。

家庭科分野の学習を進めるにあたって

第2学年

☆2年家庭分野の課題は

課題は：布を用いた物の制作を通して、生活を豊かにするための工夫ができること。

それを克服するために：実習を多く取り入れた授業をします。

発展的な学習のために：単元ごとに基本的な演習問題を行います。

☆授業の進め方

グリーンコンシューマー（環境を考えた消費者）をテーマに「衣生活」と「消費と環境」について1年間学習を進めます。

〈教室での授業〉

- ① 教科書とプリントにそって授業を進めていきます。
- ② 1時間の授業は、「先生の説明」、「個人の学習」、「先生と皆で考えたりまとめたりする学習」で進めます。

〈調理室・被服室〉

- ① 実習内容や注意点について、先生から説明をします。
- ② 班で協力をして実習をします。
- ③ 実習の結果を先生が評価します。
- ④ 後片づけをします。
- ⑤ 実習記録用紙に学習したことをまとめます。

☆学習する上で注意してほしいこと

①持ち物

教室…教科書・ファイル・（色鉛筆・のり）→教室のロッカーに置いておいてもよいです。

調理室…エプロン・三角巾・マスク・教科書・ファイル

被服室…裁縫道具・名前ペン *材料は被服室に置いておきます。

- ②実習は課題を持って取り組みましょう。また、文字や図は丁寧にしっかり書きましょう。
- ③ 実習では、机上の整理・安全な用具の使い方に注意しましょう。
- ④ 実習では、班で協力し友達のよいところを学びましょう。
- ⑤ 学習したことは、自分の生活に生かすようにしましょう。
- ⑥ 被服室では、たち歩きは禁止です。用がある時は手を挙げましょう。

☆家庭学習の進め方

- ①学習内容に合わせて、家庭学習課題を出します。
しっかり取り組み、期限内に提出しましょう。
- ②学校で学んだことを日々の生活に生かしましょう。
- ③家事を分担し、お手伝いをしましょう。
- ④社会の動きやニュースをキャッチしましょう。

☆テスト前の学習（テストは期末考査のみ年間2回です。毎回50点満点です。）

- ①ノートやプリントを見直す。
- ②教科書を見直す。
- ③実習したことを思い出す。

☆一年間の学習内容

※状況により変更する場合があります。

前期		後期	
月	<2編 私たちの衣生活と住生活> 1章 衣生活と自立	月	6基礎技能 洗濯機を用いた洗濯・アイロンかけ・ブラシかけ・収納・しみ抜き
4	1 衣服の働きを考えよう	10	3章 生活を豊かにするために 1 生活を豊かにするために 2 ファイルカバーの製作
5	2T・P・Oを踏まえた自分らしい着方を工夫しよう	11	<4編 私たちの消費生活と環境> 1章 私たちの消費生活 1 消費者としての自覚を持つ
6	3衣服の計画的な活用方法を考えよう	12	2商品選択と購入について 3消費者トラブルを解決する方法を考えよう
7	4必要な衣服を選択しよう	1	4より良い消費生活を目指して
8		2	<1編 私たちの食生活> 3章 調理と食文化
9	5衣服の手入れをしよう	3	1 調理実習の計画（郷土料理） 調理実習 学習のまとめ

☆評価

家庭分野では下記の3観点から総合的に判断します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族や、家庭、衣食住、消費や環境などについて理解していると同時に、それらにかかわる技能を身に着けている。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践・評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に着けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
方法	定期テスト、プリント 計画・実施記録表	定期テスト プリント 計画・実践記録表 教科書など「話し合ってみよう」などの学習活動 レポート 話し合い活動	ノート プリント レポート 授業中の発言 計画・実践記録表

尚、技術分野と合わせて最終評価としますが、その割合は5：5です。

英語の学習を進めるにあたって 第2学年

☆2年 英語の到達目標

1. はっきりと話されれば日常的な話題について、話の概要をとらえることができる。
2. 日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の概要をとらえることができる。
3. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
4. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。
5. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。

☆ 授業の進め方

- ① その時間の目標や課題を理解し、さまざまな活動に取り組む。
- ② 活動として「聞くこと・読むこと・話すこと（即興で行う）・話すこと（準備をして行う）・書くこと」がある。一人で取り組んだり、友だちと取り組んだりする。
- ③ 話し合ったことを整理し、発表する力をつける。
- ④ 教科書やプリント等を活用し、学習内容をより深く定着させる。
- ⑤ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。
- ⑥ 定期考査や小テスト等で自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直ししながら、分からない部分を復習する。

☆ 学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な物は忘れない。
【持ち物】：教科書、ノート、タブレット、読解教材（読みトレ）、単語帳（新コメタン Jr.）、問題集（新英語のワーク）、ファイル（プリントなどの保管用）、筆記用具
- ② 授業中は先生の話をよく聞き、「話を聞く時間」、「活動の時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリをつける。
- ③ プリントはノートに貼るかファイルにまとめておく。
- ④ 気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどはメモをとり、以後の学習に生かす。疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問する。
- ⑤ 宿題や提出物は自分のためになるように取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆ 家庭学習の進め方

- ① 学習した内容について教科書やノート、問題集などを使い、その日のうちに復習をする。
- ② 毎授業で文法の練習問題（ノート）か教科書本文プリントが宿題になる。
- ③ 教科書本文は、音読しながらプリントに1回書く。自習用ノートなどに自分の理解が深まるまで練習する。
- ④ 文法は、学習したその日のうちにノートの練習問題と問題集に取り組む。自分の理解が深まるまで復習する。
- ⑤ New Words（新しく習った単語）、Key Sentence（重要文）、教科書本文を声に出して読めるように練習する。教科書本文は、英語を見ずに言えるようになることを目標にする。

☆ テスト前の学習

- ① 教科書の本文を改めて音読できるか、日本語に直せるか、直前に見ただけで発音しながら書けるかをチェックし、できないものは自習用ノートなどに覚えるまで書いて練習する。
- ② 新英語のワーク（問題集）をもう一度解く。間違えたところは正解するまで解く。
- ③ 自分で解決できないところは、必ず先生や友達に聞く。試験までに分かるようにする。

☆ 1年間の学習内容 **[NEW HORIZON English Course 2 (東京書籍)]**

前 期		後 期	
月	言語材料と指導の重点	月	言語材料と指導の重点
4	1年生のふり返り Unit 0 (過去進行形・There is ~.の文) これまでに学んだことを使って、自分が体験したことについて発表できる。	8 9	Unit 4 (助動詞・動名詞) must / ~ing 習慣やマナーについて、たずねたり伝えたりすることができる。
5	Unit 1 (未来を表す・SVOO) be going to ~/ will / show, give, buy, teach 休暇や週末の予定について、たずねたり伝えたりすることができる。	1 0	Unit 5 (疑問詞 + to + 動詞の原形) 身近なもの・ことについて、使い方ややり方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。
6	Unit 2 (接続詞) when / if / that / because 好きな食べ物やその理由について、紹介文を書くことができる。 Unit 3 (不定詞) to + 動詞の原形 自分が体験したことや学んだことなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。	1 1	Unit 6 (比較表現) 比較級 / 最上級/ as~as 身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる。
7	Stage Activity 1 (A Message to Myself in the Future) 好きなことや得意なことについて話し合い、自分に合うと思う仕事について書くことができる。	1 2	Stage Activity 2 (Research and Presentation) クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表することができる。
		1	Unit 7 (受け身) be + 過去分詞 各地の世界遺産を紹介することができる。
		2	Stage Activity 3 (My Favorite Place in Our Town) 自分の町のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴やよい点を伝えることができる。
		3	

☆ 評価について

1 知識及び技能

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、プリント、ノート、音読・パフォーマンステスト

- ・英文を書くときの基本的な構成と表現を理解している。
- ・英文の形・意味・用法を理解している。
- ・動詞の種類や伝えたい内容に合わせて、適切な構造の文を使い分ける技能を身につけている。
- ・習った表現をもとに、まとまった英文を聞き、その概要を聞き取る技能を身につけている。
- ・英文の内容を読み取ったりする技能を身につけている。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期考査、単元テスト、プリント、ノート、話し合い活動、パフォーマンステスト

- ・自分の考えを英語で伝えるために、簡単な語句や文を用いて書いたり話したりしている。
- ・英語で書かれた文章の概要をとらえたり、それについて自分の意見を考えて理由とともに発表したりしている。
- ・相手や場面に応じて、考えを整理してまとめ、やり取りしたり、書いたりしている。

以上のことから個人の内面での理解はもとより、ライティングや発表、話し合いで意見を共有できるものとする。

- ・まとまった英文を聞いて、必要な情報を聞き取っている。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業や課題への取り組み、個人内評価 等

- ・授業に取り組む姿勢や積極的な発言
- ・ノートやプリントの記述
- ・自己評価

以上を総合的にまとめ評価する。

道徳科の学習を進めるにあたって 全学年

道徳の目標

よりよく生きるための基礎となる道徳性を養う

- ・自己を見つめる
- ・物事を多面的、多角的に考える
- ・人間としての生き方について考えを深める
- ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う

学習の方法

① 読み物教材の登場人物について考える学習

登場人物の判断や心情を多面的、多角的に考えることをとおして、道徳的価値について考えを深める。

② 問題解決的な学習

話し合い活動などをおして、問題の解決について考え、生きる上で出会う様々な課題を主体的に解決するための資質や能力を高める。

③ 体験的な学習

ロールプレイング（役割演技）などの疑似体験的な活動をおして、道徳的価値について考えを深める。

一年間の学習内容

<自分自身に関する事>

- 自主・自律・自由と責任
- 節度・節制
- 向上心・個性の伸長
- 希望と勇気・克己と強い意志
- 真理の探究・創造

<人との関わりに関する事>

- 思いやり・感謝
- 礼儀
- 友情・信頼
- 相互理解・寛容

<集団や社会との関わりに関する事>

- 遵法精神・公德心
- 公正・公平・社会正義
- 勤労
- 社会参画・公共の精神
- 家族愛・家庭生活の充実
- よりよい学校生活・集団生活の充実
- 国際理解・国際貢献
- 郷土の伝統と文化の尊重・郷土を愛する態度
- 我が国の伝統と文化の尊重・国を愛する態度

<生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事>

- 生命の尊さ
- 自然愛護
- 感動・畏敬の念
- よりよく生きる喜び

評価について

数値による評価、評定ではなく学習内容について自分との関わりとして考える姿勢や、他者の考えからの新たな気づきなどの成長を授業の様子やワークシートから見取り、他の生徒との比較ではなく、生徒一人一人を認め、励ます個人内評価として記述します。